



THE KASHIWA STORY

かしわストーリー 第11号 柏市図書館のあり方の実現に向けて 2022年12月15日発行

市では、2019年2月に〈学ぶこと(学び)、分かちあうこと(共有)、創りだすこと(創造)を支え、「ひと」と地域を育みます〉を基本理念とする「柏市図書館のあり方」を策定し、この実現に向けて様々な事業に取り組んでいます。実施した事業について「かしわストーリー」としてまとめることで、市民の皆さまにお知らせするとともに、記録として残していきます。今回は、図書館協議会において、地域資料の収集等を行う上での指針となる「市の問題意識と方向性」を取りまとめましたので報告します。

● 地域情報コーナーの設置・更新を進めています 【永楽台分館】

図書館では「柏市図書館のあり方」に基づき、地域の特色ある資料を、その地域の分館に集積し、活用を目指す「地域情報の拠点化事業」を進めており、分館への「地域情報コーナー」の設置と更新に取り組んでいます。

2022年2月に永楽台分館に設置した地域情報コーナー「只見町情報コーナー」では、只見町に関する資料を揃え、永楽台地域と只見町との交流の歴史を地域の皆さんに紹介しています。資料の充実を図りながら、これまでに3つの企画展を行っています。

- (企画展) 「祝 只見高校 甲子園出場！」 (2022年2月)
- 「司馬遼太郎の『峠』の世界」 (2022年6月)
- 「祝・JR只見線全線運転再開」 (2022年10月)



▲「祝 只見高校 甲子園出場！」展示

【参考：只見町と永楽台地域の交流】

福島県の西南に位置し、日本有数の豪雪地帯としても知られている只見町とは、昭和56年から始まった永楽台地区との市民交流をきっかけに、平成6年に柏市と只見町で「ふるさと交流都市」を提携、平成17年には「災害時における相互応援協定」を提携しています。また、只見町の冬の一大イベントである「只見ふるさとの雪まつり」の開催に合わせて、柏市ふるさと交流協会が中心となって企画したツアーに市民が参加し、住民間の交流を深めています。2022年春の甲子園に21世紀枠で只見高校が初出場した際には永楽台地域をあげて応援し、10月には、交流40周年の記念式典を永楽台近隣センターで開催し、記念品の交換が行われました。

図書館では、只見町との交流は、永楽台地域に暮らす方の誇りや愛着につながる活動だと考えており、永楽台分館の資料として保存し、地域の皆様に提供してまいります。

「祝・JR只見線全線運転再開」展示▶



● 地域資料の収集等について議論

柏市立図書館協議会では、令和3年度から2年にわたり、「柏市図書館のあり方」の重要項目の一つである“地域”をテーマに協議を行っています。

「地域資料」は公立図書館の最も重要な資料です。今後、この地域資料の収集・整理・保存・活用をより一層図っていくため、図書館協議会において、その基礎となる考え方を整理しました。

令和3年度の第2回協議会では、慶應義塾大学文学部准教授の福島幸宏氏から講演をいただき（裏面参照）、地域資料に関する認識を共有した上で、グループワーク等で議論を深めてきました。

3回の協議を経て、取りまとめたものが裏面の「市の問題意識と方向性」です。図書館ではこれをもとに、地域の方々と協力しながら取組を進めてまいります。



▲講演後のグループワークでは活発な議論が交わされました。

柏市立図書館協議会の会議録は[こちら](#)からご覧ください。



令和3年度第2回 柏市立図書館協議会（2021年12月24日開催）

講演：『地域の資料・情報センターとしての図書館へ』 慶應義塾大学文学部准教授 福島幸宏氏

（講演要旨）

- ・図書館は地域の情報を集約し、発信する拠点。地域情報のハブとなる。
- ・必要な情報を必要としている場所に届けるということは図書館の使命。
- ・地域の情報の集約と発信が必要。その手段としてデジタルアーカイブが挙げられる。
- ・地域にある資料はすべて図書館にとって重要な地域資料。まだ価値が定まっていない「プレ文化資源」と呼ばれる資料から、自分たちで価値を発見していく過程が重要となる。
- ・ポーンデジタル（最初からデジタル形式で作成され、流通しているもの）の情報も重要な地域資源。



「市の問題意識と方向性」

〇問題意識

- (1) 世代交代等により、市民が保管している地域の歴史や様々な活動を記録した資料が次々に失われていることに危機感を持っています。また、地域の伝統行事も担い手不足等で存続が危ぶまれており、記録の保存が喫緊の課題だと認識しています。
- (2) 収集対象となる地域資料は、流通する書籍に限らず、様々な形態（写真・チラシ・冊子・電子データ等）があり、地域住民自身もその価値を認識していないこともあります。このため、資料等の散逸について危機感を共有するとともに、多様な主体と連携した収集活動が必要だと考えます。
- (3) 「いま」の資料や記録を残すことも大切です。近年では、Webのみで発信される地域情報も多く、地域の活動記録や歴史を残すためには、デジタル情報への対応が不可欠です。
- (4) これらの資料や記録を収集・整理し、次の世代に引き継ぐことは、地域資料の収集の役割を担っている図書館の使命であると考えます。

〇方向性

- (1) 地域資料の収集・整理の活動では、地域の人が自ら価値を発見していく過程が重要です。地域への誇りや愛着の醸成、新たなコミュニティを結び直すきっかけにもなると考えています。
- (2) 地域資料に携わる人材を育成しながら行うことや、図書館（行政）と地域住民を結ぶコーディネーター役を配置することが持続可能な活動につながると考えます。
- (3) 資料の存在を周知し、資料を活用した取組（館内展示、学校連携等）を発信していくことが重要です。学術的な取組と、広く興味・関心を喚起する取組の両面から事業を行うことで、より多くの市民が関与する仕組みを構築します。
- (4) 市内に分館が17館ある特徴を活かし、その地域にしかない資料・情報を地域の分館に集積し、各分館が地域情報の拠点として機能するよう取り組みます。
- (5) この「地域情報の拠点化事業」を進めるにあたっては、①試行的・段階的に取組を行う、②限られた図書館の経営資源の再配分、③図書館が担うことと他に任せることの線引き、④外部組織との連携、⑤利活用を前提としたデジタルアーカイブの構築、を考慮して事業を検討します。

